



あたま つよ う 頭を強く打つと、あたま わる 頭が悪くなるってほんとうなの

う 打つていどによって、あたま わる 頭が悪くなることもある

あたま つよ う 頭を強く打つといっても、そのていどによって、あたま わる 頭が悪くなることもありますし、そうでない場合もあります。

たいせつ のう は、にじゅう 二重にもさんじゅう 三重にもほご 保護されています。あたま 頭はまず、じょうぶなほね 骨でできていますし、そのなか 中にあるのう 脳は、まわり 周りのほね 骨にゴツゴツぶつからないように、えきたい 液体とじょうぶなまく 膜で包まれています。ですから、な 何かにぶつけてこぶができたとか、ともだち 友達とごつんとぶつかったていどでは、あたま わる 頭が悪くなるようなことはありません。

しかし、こうつうじこ 交通事故やひこうきじこ 飛行機事故などで、あたま ほね お 頭の骨が折れたり、のう きず 脳に傷がついてしゅっけつ 出血したりするほど、あたま つよ う 頭を強く打った場合には、かなり、のう はたらき えいきょう のこ ある 影響が残ります。歩けなくなったり、ものわす 物忘れをしたりなど、ふつうのあたま のう 頭（脳）のはたらきでなくなるのです。

だいのう きず 大脳に傷などがついてきおく うしな 記憶を失うこともある

わたしたちが、み 見たり、き 聞いたり、たいけん 体験したりしたことは、まずのう おく 脳へ送られ、きおく こころ おぼ 覚えていることとして、だいのうひしつ 大脳皮質というところにためられます。

ところが、あたま つよ う 頭を強くぶついたりして、だいのう きず 大脳に傷などがついたりすると、そのきおく うしな 記憶が失われて、すべてのことをわす 忘れてしまうことがあり、それをきおく しつ 記憶そう失といっています。

（監修・保志 宏）

